

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査 結果

## (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## (2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年【岬町：実施校数・児童数 3校 80人】  
 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年【岬町：実施校数・生徒数 1校 100人】

## (3) 調査内容

- ①教科に関する調査
    - ・小学校等【国語・算数】
    - ・中学校等【国語・数学】
  - ※英語(中学校等)理科(小学校等)は3年に1度程度の実施のため実施せず
  - ②質問紙調査(児童生徒に対する調査、学校に対する調査)
- (4) 実施日 令和3年5月27日(木)

## 【今年度調査の特徴】

- ※令和2年度調査は新型コロナウイルス感染症にかかる影響を考慮し、未実施のため本年度は2年ぶりの実施
- ※可能な限り、多くの児童生徒が同じ条件で参加できるように、例年より約1か月遅れの日程で実施

## 各教科の状況

### ○小学校国語

	領域等	岬町の平均正答率(%)
小学校 国語	話すこと・聞くこと	78.3
	書くこと	65.0
	読むこと	45.8
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	68.5

「話すこと・聞くこと」は概ねできている。特に目的や意図に応じ、資料を使って話すことについて、相当数の児童ができています(正答率 81.3%)。一方、「読むこと」には課題が見られ、特に目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つけること(正答率 31.3%)や目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること(正答率 26.3%)についてできていない児童が多い。

### ○小学校算数

	領域等	岬町の平均正答率(%)
小学校 算数	数と計算	60.9
	図形	50.8
	測定	70.8
	変化と関係	76.7
	データの活用	74.3

「変化と関係」は概ねできている。特に速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考察することについては相当数の児童ができています(正答率 92.5%)。一方、「図形」には課題が見られ、特に三角形の面積の求め方について理解すること(正答率 47.5%)や複数の図形を組み合わせた平行四辺形について面積の求め方と答えを記述することについて出来ていない児童が多く(正答率 42.5%)、無回答率も高い。(7.5%)

### ○中学校国語

	領域等	岬町の平均正答率(%)
中学校 国語	話すこと・聞くこと	75.7
	書くこと	54.3
	読むこと	45.8
	言葉等の知識や理解	72.5

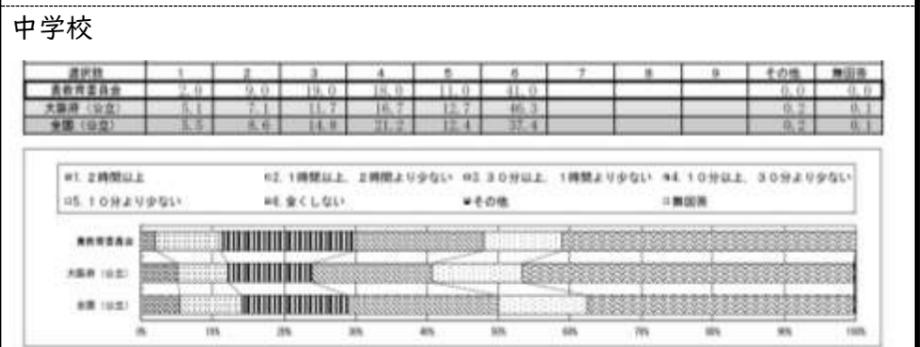
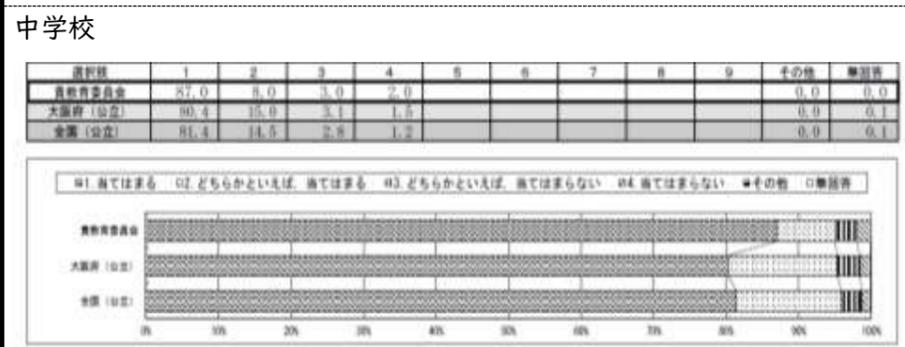
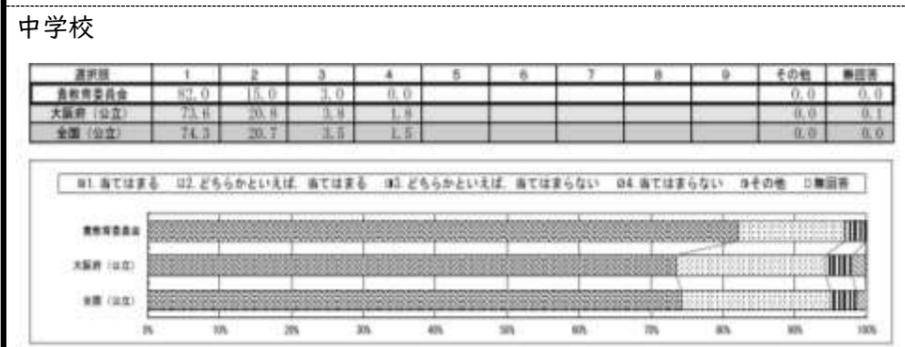
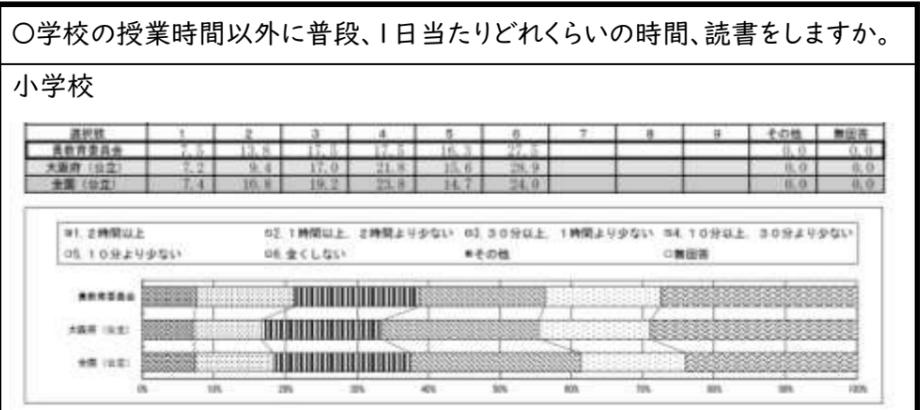
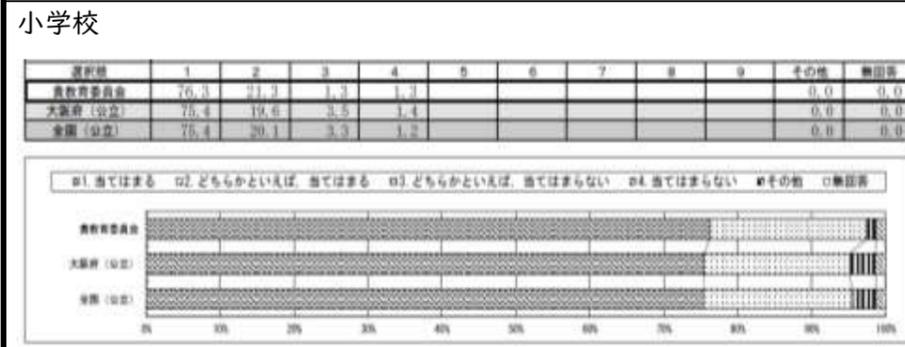
「話すこと・聞くこと」は概ねできている。特に話合いの話題や方向性を捉えたり(正答率 88.0%)、質問の意図を捉えたりすること(正答率 91.0%)について相当数の生徒ができています。一方「読むこと」には課題が見られ、特に文脈の中における語句の意味を理解すること(正答率 33%)や文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことについて、できていない生徒が多く(正答率 28.0%)、無回答率も高い。(13.0%)

### ○中学校数学

	領域等	岬町の平均正答率(%)
中学校 数学	数と式	57.6
	図形	48.3
	関数	56.0
	資料の活用	51.5

「数と式」は、概ねできている。特に問題場面における考察の対象を明確に捉えることについては概ねできている。(正答率 78.0%)一方「図形」には課題が見られ、特に、ある条件下でいつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現すること(正答率 26.0%)について、できていない生徒が多く無回答率も高い。(16.0%)また、「資料の活用」においてもデータの傾向を捉え判断の理由を数学的な表現で説明することに課題がある。(正答率 9%)

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



○小学校・中学校とも人の役に立つ人間になりたいと考えている子どもの割合が非常に高く、令和元年度(小 92.7%,中 95.5%)よりも増加している。

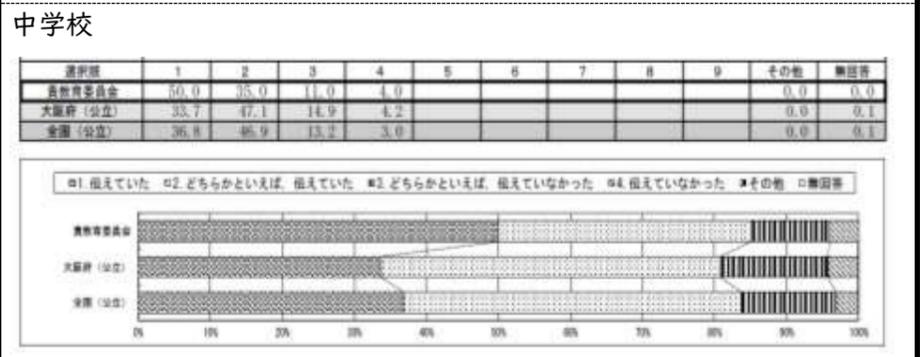
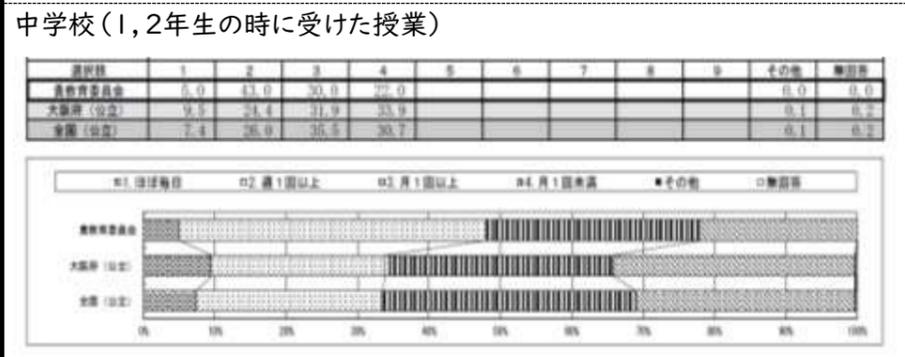
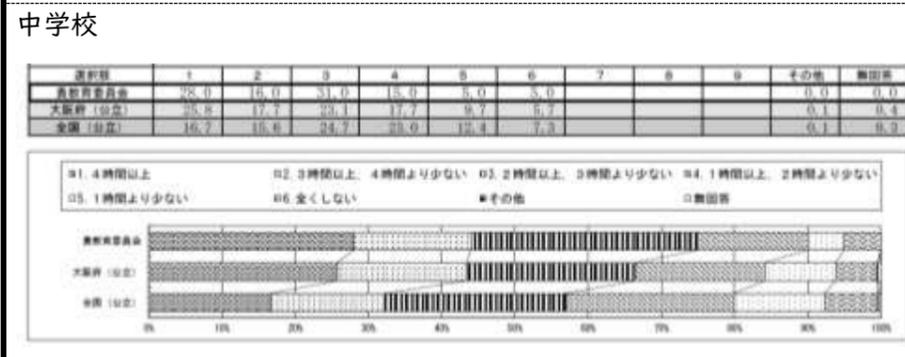
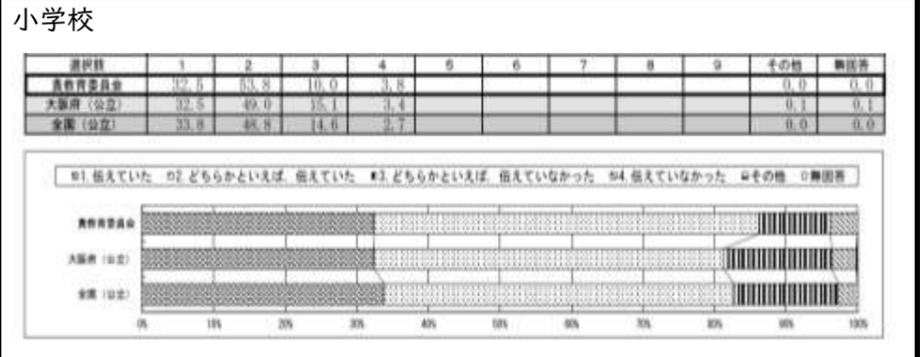
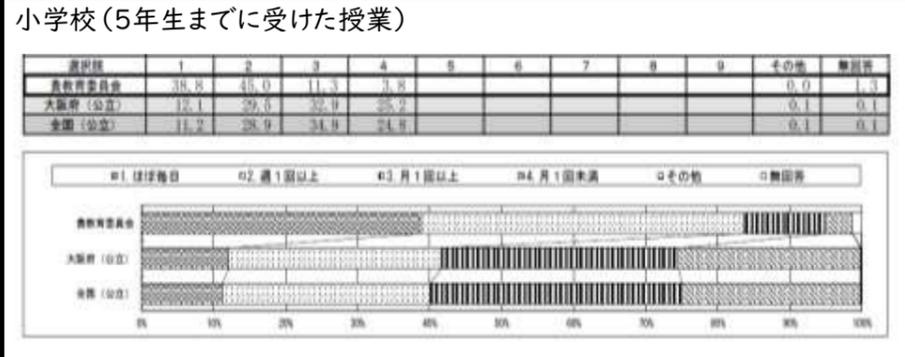
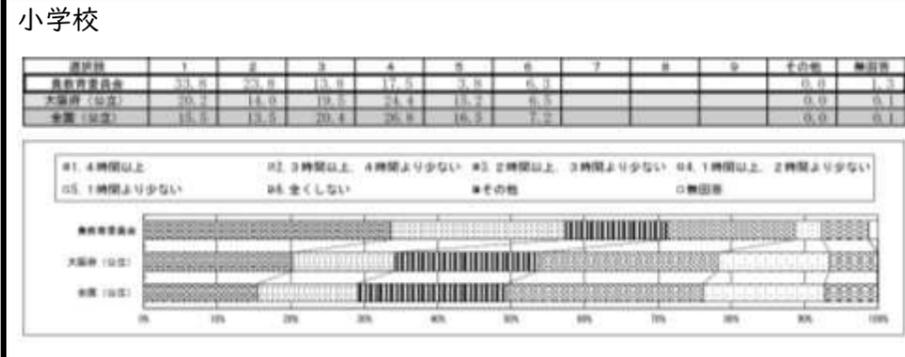
○小中学校共にいじめはいけないという意識が高い。生徒指導や人権教育、いじめをなくす取組みによる成果であると考えられる。

●1日あたり全く読書をしていない子どもが小学校で27.5%、中学校で41.0%おり令和元年度調査(小 19.8%、中 41.8%)と同程度で課題である。

○普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間テレビゲーム(携帯型やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか。

○前年度までに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使いましたか。

○生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止め、自分の考えをしっかりと伝えていましたか。



●1日2時間以上テレビゲームをしている児童生徒の割合(小学校71.4%・中学校75%)が高い。(参考値:平成29年度調査、小 43%、中 48.8%)

○小学校・中学校ともICTの使用頻度は高い。GIGAスクール構想のもと、一人一台端末の利活用が進んでいると考えられる。

○コロナ禍の状況下でも工夫を凝らしながら班活動やグループ学習を行い、他者と意見交換し、新しい気づきのある授業や協働学習が進んでいる。

